



Report on Pre-cruise Training

Reporting date: 06/07/2015

Name: Resti Samyati Jatiningrum

Affiliation and job title: Akita University (Doctoral student)

IODP Expedition Number and Name	Expedition 356 – Indonesian Throughflow
Responsibility in IODP Expedition	Paleontologist (nannofossil)
Training Period (including transportation)	From 23/06/2015 to 25/06/2015
Venue	Kochi Core Center (Kochi University, Monobe Campus)

Result of the training

IODP pre-cruise training was held for 3 days begin on 23-25 June 2015. The pre-cruise training held at Kochi Core Center (Kochi University, Monobe Campus) and attended by all cruise participants from Expedition 356 and 359, 8 peoples in total. The first day of pre-cruise training begin in the afternoon. The KCC staff explained about general information of IODP, sample policies, and procedures. Afterward we visited the core storage and laboratories that might be related to our next research during/after the cruise. Second day in the morning we visited sampling room. There we observed core from site 762A from LEG 122. Core from site 762A is the nearest site from our expedition (Expedition 356). It has shallow depth and Cenozoic sediments had been recovered. This core probably has some sedimentary faces that maybe common from our expedition. Then we made smear slide samples to observe under microscope. In the afternoon we have organic geochemistry lecture continued with paleontology lecture by Masao Iwai. He gave us brief introduction regarding the IODP cruise, our duty before, during and after the cruise. He gave us explanation based on his cruise experience especially from Expedition 355, Arabian Sea Monsoon that just finished a few weeks ago. After that we have discussion with other participants related all activity on IODP cruise. The third day we have more discussion related to our future research and sampling method between cruise participants.

Future plan

My future plan is to do some research on biostratigraphy on calcareous nannofossils from NWS Australia and oceanographic changes in the Pliocene-Quaternary at the Eastern Indian Ocean. The samples for this research will be taken from site NWS-5A, NWS-4A, NWS-2A, and NWS-1A. If possible I will do high-resolution sample, which is per 10 cm depth interval.

Notes

Note:

1. The report should be submitted to the J-DESC/IODP Travel Support through email (travel@j-desc.org) **within two weeks after the training.**



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2015 年 7 月 1 日

氏名： 石輪健樹

所属機関・職名：東京大学大気海洋研究所 博士課程 2 年

IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Expedition 356 Indonesian Throughflow
乗船時の役割	Physical Properties Specialist
出張期間（移動含む）	2015 年 6 月 23 日 ～ 2015 年 6 月 25 日
実施場所	高知コア研究所
<p>実施による成果と今後の計画</p> <p>プレクルーズトレーニングでは、J-DESC から派遣される乗船者と初めて会うことができた。乗船者間では、お互いのサンプルリクエストの内容、研究内容について、また、今回の IODP の航海を通じた共同研究の可能性について議論を交わした。また、高知コア研究所における講義では、サンプルリクエストからサンプルが手元に来るまでの流れをはじめとする IODP 全体のフローを学び、船上における作業の具体的なイメージをもつことができ、IODP に参加するにあたって大変参考になった。また、今回の掘削地点の近くの ODP のコアを直接観察することができ、実際、船上で上がってくるコアの形状およびその扱い方を学ぶことができた。</p> <p>5 月に終了した Expedition 355 Arabian Sea Monsoon に参加した、高知大学の岩井教授から直接お話を聞くことができ、最新の JOIDES Resolution の施設状況および注意点を教えて頂いた。また、高知コア研究所の方々には、忙しい中、丁寧な対応をして頂き、感謝している。</p> <p>今回のプレクルーズトレーニングでは、私の役割である Physical Properties Specialist 以外の仕事内容についても知ることができた。そのため、Expedition 全体のイメージをもつことができ、大変有意義なものであった。私は、上記のプレクルーズトレーニングの経験を船上で大いに活用し、IODP Exp. 356 航海の成功への一助になる役割を果たしていく考えである。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2015 年 6 月 30 日

氏名： 岩谷北斗

所属機関・職名：香港大学・博士研究員

IODP 研究航海番号 および航海名	Exp. 356 Indonesian Throughflow
乗船時の役割	Sedimentologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2015 年 6 月 23 日 ~ 2015 年 6 月 25 日
実施場所	高知大学 海洋コア総合研究センター
実施による成果と今後の計画 高知コアセンターにておこなわれた Exp.356 のプレクルーズトレーニング (以下、トレーニング。実施期間：2015 年 6 月 23 日～25 日) に、他 3 名のクルーズ乗船研究者 (東北大・高柳博士、東京大海洋研・石輪氏、秋田大・Jatiningrum 氏) とともに参加した。本トレーニングは、Exp.359 の乗船研究者と合同で実施された。以下に、トレーニングの実施内容の詳細とその成果、今後の計画を示す。 【内 容】 第一日目は、Exp.356 乗船研究者との顔合わせののち、座学にて IODP クルーズと乗船業務の講義を受けた。その後、高知コアセンターの施設および設備の見学・説明を受けた。二日目は、午前中に、IODP コアの観察をおこなった。観察には ODP Leg.122, Site 762A, section2 から得られた Legacy コアを使用した。コアの岩相観察ののち、スミアスライドを作成し、石灰質ナノ化石の観察を試みた。午後からは、座学にて Organic Geochemist および Paleontologist を対象とした講義を受けた。乗船中には、分野を跨いだ議論がおこなわれ、知見の共有と理解が求められることが予想されるため、それぞれの講義に、別分野の乗船研究者も参加した。最終日は、乗船研究者とそれぞれのサンプルリクエストと研究計画について話し合ったのち、それぞれの専門分野についての講義を受けた。自身は、高知コア研究所の阿波根博士より、Sedimentologist の船上業務の詳細と事前の準備作業についての説明を受けた。 【成 果】 最も大きな成果は、乗船研究者とそれぞれの研究および乗船業務について、直接話し合えたことである。各々のサンプルリクエストと研究計画の詳細を知り、すり合わせをすることができた。また、長期間の研究航海において、参加者同士を知り、信頼を得ることは非常に重要であり、今回のトレーニングでそれが達成できたことは大きな成果である。つぎに、講義・実習を受けたことにより、船上での生活の様子と専門業務の流れを掴むことができた。これにより、実際の業務を円滑におこなえると期待している。 【予 定】 今後とも、乗船まで参加者同士、連絡を密に取り合う。過去のクルーズの報告書、関連する文献を熟読し船上での業務に備える。今回のトレーニングにより得られた情報をもとに、研究計画のポリッシュアップを図る。 【謝 辞】 Exp.356 のプレクルーズトレーニングの実施にあたりご尽力いただいた、IODP/J-DESC、KCC、高知大学 (順不同) の職員の皆さまに心よりお礼申し上げます。	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日：2015年6月27日

氏名：高柳栄子

所属機関・職名：東北大学大学院理学研究科・助教

IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Expedition 356・Indonesian Throughflow
乗船時の役割	Inorganic geochemist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2015年6月23日 ~ 2015年6月25日
実施場所	高知コアセンター
実施による成果と今後の計画	
<p>2015年8月1日～9月30日に実施される IODP Expedition 356「Indonesian Throughflow」に参加する予定である日本人研究者4名(留学生を1名含む)は、全員 IODP 航海への参加が初めてであり、乗船中の各個人の役割や生活面において多くの不安を抱えていた。また、参加者間でのコミュニケーションならびに議論を通じて、情報共有ならびに共同研究の可能性・打ち合わせなどを行う必要があった。そこで、6月23日～25日(3日間)を使ってプレクルーズトレーニングを行った。</p> <p>1日目(23日)は、午後1時半からトレーニングを開始し、主に講師によるレクチャーを通じて、IODP 航海や掘削の概要や、掘削された試料のラベリング法やサンプリング方法などを学んだ。また、レクチャーの最後には、高知コアセンターのコア保管庫やサンプリング室を見学した。</p> <p>2日目(24日)午前は、オーストラリア沖で過去に掘削されたコア試料を用いて、同海域の堆積物の組成などを観察しながら、プレパラートの作成などについて学んだ。午後は、実際に乗船経験のある研究者が講師として来てくださり、有機地球化学と微古生物について学んだ。後半では実際の船上での生活などについても生の声を聞くことができ、とても参考になった。</p> <p>3日目(25日)午前は、参加者間での情報共有や研究打ち合わせなどを行った。また、個別に乗船経験のある研究者から細かな指導を仰いだ。</p> <p>上記3日間を通じて、船上での生活や採取されたコア試料のワークフローなどを学ぶことができ、とても有意義であった。特に、乗船経験者からの指導内容には、乗船マニュアルだけでは読み取れない部分も多く、大変勉強になった。今回学んだことは、実際の乗船で大いに役立つと考えられる。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後2週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org)でご提出ください。